区分名:看護の基本となる科目

科目名(英語名称含む): 看護学の基本Ⅱ (Nursing Fundamentals Ⅱ)

教員名: 黒田るみ

開講年次:1年次,学 期:2021年度 後期 ,必修/選択:必修 授業形態:演習 単位数:2単位 ,時間数:30時間(120分 \times 15回)

概要:看護は、対象が健康な生活を送ることができるように支援する役割を持ちます。対象は、健康状態や日常生活の状況、現在に至るまでのプロセスがそれぞれ異なります。同じ病気を抱えていても、対象が必要とする看護は同じではありません。対象が求める看護を実践するためには、看護過程は基盤となります。看護過程は、私たちが日常的に用いる問題解決の思考過程が基本となっており、多くの看護実践現場が用いている方法です。この科目を通して、看護を実践するための基本を学習します。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標:

- 1. 看護過程の基盤となる問題解決過程の考え方を理解する。
- 2. 看護過程の目的や構成要素を理解する。
- 3. 看護過程の展開が、対象との相互行為を通して行われることを理解する。
- 4. 紙上の事例を用いて、情報の整理、アセスメント、看護上の問題の抽出、看護目標の設定、看護計画の立案を行い、看護過程の基本を習得する。
- 5. 演習を通して、学生個々が自身の考え方の傾向に気づく。

学習アウトカムと科目達成レベル表

	学習アウトカム 科目達成レベル						
			1. プロフェッショナル				
看護専	門職者をめざ	す者	として、それにふさわしい基本的な態度・姿	勢の必	必要性を理解し、		
行動で	きる。						
	看護倫理	1	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、そ		実践の基盤と		
			れに基づき、考え、行動できる。		なる知識を示		
1)		看護倫理 ②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の	•	せることが単		
			意思決定を支え、擁護に向けた行動をとる		位認定の要件		
			ことができる。		である		
2)			状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣		実践の基盤と		
2)		1	い、態度をとることができる。		なる知識を示		

習慣・服 装・品位/ 礼儀		1			1 1	
要・品位/ 礼儀		装・品位/	2	時間を厳守し、何事においても真摯に対応		せることが単
(3) 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。 対人関係 (4) を払って接することができる。 (5) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4				し、積極性や誠実性を示すことができる。		位認定の要件
3) 対人関係 ① 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。			(2)	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正す		である
(1) が人関係 (1) 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。 (2) を強法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。 (2) を強法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。 (3) を強法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。 (4) を強力を表すとして優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。 (4) 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することがの意る。 (5) 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入っ乗しるととができる。 (6) を対し、自身で責任を持って考え、行動できる。 (7) か率的に入っ乗しるととができる。 (6) か率的に入っ乗しるととができる。 (7) かった・リアをデザインし、自己主導型学習(自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。 (6) ともの事業ができる。 (7) は関係を築くことができる。 (7) は関係を築くことができる。 (8) 基盤となる (8) を表し、人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。 (6) 本を理解して事重するこ (1) とする人々とのコミュニクーションを通して、他者を理解して事業ができる。 (1) 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。 (1) 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。 (1) 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。 (1) 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。 (1) 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。 (1) 人々の社会的背景を理解して尊重するこ		个口我	(3)	ことができる。		
3) 対人関係 ① 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。						実践の基盤と
(1)						なる知識を示
(金融) (本の名) (本の名) (本の名) (本の名) (本の名) (本の名) (本の名) (本の名) (本の名) (本の元) (本の	3)	対人関係	1		•	せることが単
(4) 表の等の規				息を払つし抜りることがじさる。 		位認定の要件
①						である
(金) (金) (金) (本のブライバシーを尊重できる。 (金) (金) (本のブライバシーを尊重できる。 (金) (本のブライバシーを尊重できる。 (金) (本の 本) (本の 本) (本の 本) (本の 本) (本の 本) (本の 本) (本) (本の 本) (本の 本) (本の 本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)				個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守		態度、習慣、価
 範選守 ② 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守 することができる。 2. 生涯学習 看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。 ① 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献 することの重要性を理解できる。 ② 海神的に入手することができる。 ② 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己 評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。 自己鍛錬 ② 学習(自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。 ③ 人間関係の理解とコミュニケーションを通して、他者を理解していの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。 ① 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。 ① 人々の社会的背景を理解して尊重するこ ○ 基盤となる態度、スキルを示せる。 ○ 基盤となるを理解して、他者を理解して、他者を理解して、を示せる。 		みなる 担	(I)	り、人々のプライバシーを尊重できる。		値観を模擬的
2 することができる。	4)			友华沙人 上兴然眼 主 秋 眼 5	0	に示せること
2. 生涯学習		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	2			が単位認定の
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。 ② 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。 ② 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。 ③ 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己部ができる。 ② 自己鍛錬 自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。 ③ 人間関係の理解とコミュニケーションを通して、他者を理解して立る場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。 【				することかできる。 		要件である
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。 ② 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。 ② 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。 ③ 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己部ができる。 ② 自己鍛錬 自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。 ③ 人間関係の理解とコミュニケーションを通して、他者を理解して立る場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。 【				2.		
 的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習(自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。 3. 人間関係の理解とコミュニケーションを通して、他者を理解していの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。 お、人人の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。 「人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。」 本盤となる態度、スキャルを示する。 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。 「人々の社会的背景を理解して尊重するこ」 	壬	ロロボナルト・アー	/百 1。		明生の	上、八四のかと
① 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献 することの重要性を理解できる。 ② 看護学に関する情報を、目的に合わせて 効率的に入手することができる。 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己 評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習(自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。 3. 人間関係の理解とコミュニケーションを通して、他者を理解していの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。 1) とする人々とのコミュュ ② 人々の社会的背景を理解して尊重するこ □ を持ち、深く洞察することができる。 □ とする人々とのコミュュ						ムい分野の科子
1) することの重要性を理解できる。 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。 基盤となる態度、習慣スキルを示せることができる。 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。 1) 自己鍛錬 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習(自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。 要件である 3. 人間関係の理解とコミュニケーション 自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解している場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。 基盤となる態度、スキャッを持ち、深く洞察することができる。 4. とのコミュニターションを通して、他者を理解してきまる。 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。 基盤となる態度、スキャッを持ち、深く洞察することができる。 1) とする人々とのコミュニターションを通して、他者を理解してきまなる。 基盤となる態度、スキャッを持ち、深く洞察することができる。	印用報	で収集・評価 	し、) 。 	
1) 自己啓発と自己啓発と自己鍛錬 ② 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。 ○ 経験となる態度、習慣スキルを示せることが関立という。 1) 自己鍛錬 ① 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習(自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。 要件である。 3. 人間関係の理解とコミュニケーションを通して、他者を理解している場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。 ① 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。態度、スキルを示せるとする人々とのコミューターションを通して、他者を理解している場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。 基盤となる態度、スキルを示せる。 1) とする人々とのコミューターションを通して、他者を理解している場をできる。 ① 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。 ※ 基盤となる態度、スキルを示せる。 1) とする人々とのコミューターションを通して、他者を理解している場合いできる。 ※ 基盤となる態度、スキャルを示せる。						
1						
1) 自己啓発と 自己啓発と 自己という はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます						基盤となる
1) 自己啓発と 自己鍛錬 ③ 評価を行い、自身で責任を持って考え、 行動できる。 ○ スキルを示せることが 単位認定の 要件である 型学習(自身の疑問や知識・技能不足を 認識し、自ら必要な学習)により、常に 自己の向上を図ることができる。 3. 人間関係の理解とコミュニケーション 自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解していの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。 基盤となる 態度、スキルを示せる 1) とする人々 とのコミュ ① 人々の社会的背景を理解して尊重するこ 基盤となる 態度、スキルを示せる						態度、習慣
自己鍛錬	- \	自己啓発と				スキルを示
自らのキャリアをデザインし、自己主導 型学習(自身の疑問や知識・技能不足を 認識し、自ら必要な学習)により、常に 自己の向上を図ることができる。 3. 人間関係の理解とコミュニケーションを通して、他者を理解して 互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。 1) とする人々とのコミュニクーションを通して、他者を理解して 基盤となる 態度、スキールを持ち、深く洞察することができる。 上のコミュニクーションを通して、他者を理解して はまなる 上のといる。 上のといるとは、日本のとは、日本のといるとは、日本のとは、日本のといるとは、日本のとは、日本のといるとは、日本のといるとは、日本のといるとは、日本のとは、日本のとは、日本のといるとは、日本のといるとは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のとは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本の	1)	自己鍛錬	3			せることが
型学習(自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。 3. 人間関係の理解とコミュニケーションを通して、他者を理解して事業したよりよい人間関係を築くことができる。 「大々の生命、健康、生活について幅広い関したまりよい人間関係を築くことができる。」 「大々の生命、健康、生活について幅広い関したまりよい人間関係を築くことができる。」 「大々の生命、健康、生活について幅広い関した。」 「大々の生命、健康、生活について幅広い関した。」 「大々の生命、健康、生活について幅広い関した。」 「大々の生命、健康、生活について幅広い関した。」 「大々の生命、健康、生活について幅広い関した。」 「大々の生命、健康、生活について幅広い関した。」 「大々の主命、健康、生活について幅広い関した。」 「大々の主命、健康、生活についてもないできる。」 「大々の社会的背景を理解して尊重するこ」 「大々の社会の社会の背景を理解して尊重するこ」 「大々の社会の社会の社会の背景を理解して尊重するこ」 「大々の社会の社会の社会の社会の社会の社会の社会の社会の社会の社会の社会の社会の社会の						単位認定の
(4) 認識し、自ら必要な学習)により、常に 自己の向上を図ることができる。 3. 人間関係の理解とコミュニケーションを通して、他者を理解し、 互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。 1) とする人々 とのコミュ ② 人々の社会的背景を理解して尊重するこ						要件である
自己の向上を図ることができる。 3. 人間関係の理解とコミュニケーション 自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解してある。			4			
3. 人間関係の理解とコミュニケーションを通して、他者を理解し、 互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。 「おおおいます」とする人々といった。 「おおいます」とする人々とのコミュニケーションを通して、他者を理解している。 「おおいます」とする人々とのすることができる。 「おおいます」とする人々とのコミュー(②) 人々の社会的背景を理解して尊重することができる。						
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、 互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				目己の向上を図ることができる。		
互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。 看護を必要 ① 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。 基盤となる態度、スキルを示せる。 1) とする人々とのコミュー② ① 人々の社会的背景を理解して尊重するこ ルを示せる			;	3. 人間関係の理解とコミュニケーション		
看護を必要 ① 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。 基盤となる態度、スキールを示せる。 1) とする人々とのコミュ ② 人々の社会的背景を理解して尊重するこ ① ルを示せる。	自己を	·内省する力を	養う	とともに、他者とのコミュニケーションを追	重して、	他者を理解し
 看護を必要 (1) 心を持ち、深く洞察することができる。 とする人々とのコミュ (2) 人々の社会的背景を理解して尊重するこ 	互いの	立場を尊重し	たよ	りよい人間関係を築くことができる。		
1) とする人々		子 类 ナ ソ エ		人々の生命、健康、生活について幅広い関		基盤となる
とのコミュ ② 人々の社会的背景を理解して尊重するこ ルを示せる	a \		(1)	心を持ち、深く洞察することができる。		態度、スキ
とのコミュ ② とができる。	1)			人々の社会的背景を理解して尊重するこ		ルを示せる
		とのコミュ	(2)	とができる。		ことが単位

定の要件ある
ある
盤となる
度、スキ
を示せる
とが単位
定の要件
ある
一度をと気

4. 知識とその応用 看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。 (学部コースツリー参照)	
豊かな感性 と倫理観を もつ看護専 門職者		1	感性を高める科目	btt bloom 45 45 18
	2	倫理性を高める科目	模擬的な場で実践でき	
		3	論理的思考能力を高める科目	ることが単 位認定の要 件である
		4	表現力を培う科目	件でめる
	創造性豊か な看護専門 職者	1	社会の理解を深める科目	模擬的な場で実践でき
		2	人間の理解を深める科目	ることが単

		3	人間の身体機能と病態を理解する科目		位認定の要 件である
			看護の基本となる科目		
		(5)	看護実践の基盤となる科目		
	ニーズに対応する実践	1	看護実践の応用となる科目		基盤となる知識を示せ
3)	心りる美成 能力を備え た看護専門	2	看護の実践	•	和職を小せることが単 位認定の要
	職者	3	看護を統合する科目		性である
			5. 看護の実践		
	i生活するあら することがで		場において、あらゆる健康レベルの人々のコ 。	ニーズに	基づいた看護
		1)	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることがで きる。		
		2	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		
	人々のニー ズに基づい	3	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。	(看護の一部 として実践 できること
1)	た看護の実践	4	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計 画することができる。	©	が単位認定 の要件であ
		(5)	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健 康段階に応じた看護を実践できる。		る
		6	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の 専門職と協働して、人々がその健康問題を 解決することを支援することができる。		
		7	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		地域の人々の健康問題の解決のために、既			
	8	存の社会資源の改善や新たな社会資源の 開発、フォーマル・インフォーマルなサー			
		ビスのネットワーク化、システム化の重要			
性を説明できる。					

6. 地域社会への貢献

- (1)地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。
- (2)福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	1	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連 する要因や生活背景について説明できる。	\circ	模擬的な場で実践でき
		2	人々とともに、安心して生活できる地域づ くりを考え、そのために協働する看護専門 職者の役割について説明できる。)	ることが単 位認定の要 件である
	短点の災害	1	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。 放射線災害の実際を知り、放射線を科学的		修得の機会
2)	福島の災害 ② から学ぶ ③	に学び、適切に説明できる。 放射線(および災害)に対する地域住民の 不安が理解でき、社会・地域住民とのリス クコミュニケーションについて説明でき る。	Δ	はあるが、単位認定に関係ない	

7. 看護学発展への貢献

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決する ことの重要性を理解できる。

			看護実践を通して、看護学上の	実践の基盤			
		1)	課題を考えることができる。	となる知識			
1)	 科学的・論理的思考		科学的思考に基づいて看護学	を示せるこ			
1)	11 1 42 Hills-TH25G-2	2	上の課題を解決することの重	とが単位認			
		2)		2		要性を説明できる。	定の要件で
			女性を呪切しさる。	ある			

テキスト:特にありません。

参考書:① ロザリンダ・アルファロールフィーヴア著;本郷久美子監訳:基本から学ぶ看護 過程と看護診断(第7版),医学書院,2012.

- ② 松木光子: JJN ブックス ケーススタディ看護過程—根拠に基づく看護診断から評価まで—(第2版), 医学書院, 2002.
- ③ 任和子:看護記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド(プチナース BOOKS), 照林 社、2015.

その他授業内で紹介します。

成績評価方法:筆記試験、グループワークなど授業における学習状況、授業の出席状況を総合して評価します。

その他(メッセージ等): 看護を提供するとはどのような事でしょうか。看護過程は、看護を行うための道具と言われます。看護過程を理解していても、「看護とは」が、わからなければ、対象に沿った看護を提供することができません。この授業を通して、看護過程の基本を学びながら、皆さん自身の看護観を少しずつ育ててください。

*内容について変更がある場合は、随時授業にてお知らせします。

授業内容(学習項目)

□	項目	内 容 (キーワード等)
第 1・2 回	オリエンテーション、 看護過程の概要	看護過程を学ぶ理由 看護過程と問題解決過程 看護過程の構成要素
第 3・4 回	問題解決過程	日常生活における問題解決過程
第 5・6 回	情報を集める	看護の対象に関する情報とは 対象の情報を得るために必要なこと ケアリング
第 7.8 回	情報の整理	情報の整理
第 9 · 10 回	アセスメント	アセスメントとは、 アセスメント能力とは、ニードとは
第 11 · 12 回	アセスメント	情報の分析・解釈 栄養の側面から
第 13 · 14 回	アセスメント	情報の分析・解釈 排泄の側面から
第 15 · 16 回	アセスメント	情報の分析・解釈 清潔の側面から
第 17.18 回	中間のまとめ	グループ発表 アセスメントのまとめ

第 19.20 回	看護上の問題の抽出	各項目間の関連の検討 看護上の問題の抽出、優先順位の検討
第 21 · 22 回	看護目標の設定	看護上の問題の見直し 看護過程における対象との相互行為 看護目標の設定、看護計画の立案
第 23 · 24 回	看護計画の立案	立案した看護計画の見直し O-P、T-P、E-Pの視点
第 25 · 26 回	実践の評価	看護計画実施後の評価 看護師が実践を振り返る事の意義
第 27 · 28 回	看護記録	記録の意義、看護と看護記録、SOAP 看護学実習と実習記録
第 29 · 30 回	まとめ	個別性を踏まえた看護とは 看護観と看護過程